

刊夕 日八月六



定価 一部五銭 一ヶ月五拾五銭 三ヶ月一圓二角 半年一圓五角 一年一圓八角
電話 五五五 一文字一圓五角 五拾五銭
日曜 祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

感恩の世界

眞 繼 雲 山

乃木大將は旅順港に十萬の將卒と二人の愛兒とを亡ふた。さうして自らも亦た死なんと思ふ人情を押へ、復命の使命を果たすために黙々として凱旋した。御前に復命しをばり、闕下を退くにあたつて、永の御いとまを乞ふたとき、將に退下しやうとする大將を陛下は『乃木よ、待てよ』御呼びとめ給ひ『お前は死にたいか、まだ爲すべき仕事がある朕の生きてある間汝も生きてをれ』と仰せられ、將軍は謹んで勅命に隨順したのであつたと傳へられてゐる。

赤穂の配所に幕府の流人として、牢獄にもつながらべかりし素行山鹿甚五左衛門は、淺野侯の厚遇、眞に絶するものあり、素行の感激おもふに肺腑に徹したるものがあつたであらう。彼れは曰ふ『高恩の深き、今生において酬ゆるに途なし左れど君家、一朝、倫理の變あらば、數多の甚五左衛門出でて君恩に報ずるものあらん』と。後いくばくも無くして彼の變災あり、まさし知るべし、四十七義士の輩出は、實に素行の至誠報恩の進りであつたのである。

風俗の私たちは固より素行の高風に及ぶべくもないが、而かも侯家の厚遇に比すべきものあらんには、我れも亦た死をもつて、その誼に酬ひんものと思ふ。士は己れを知る者のために死す、榮辱何んぞ問はんといふことは必ずしも士分の專賣特許ではない、匹夫野人も亦た病雀、窮龜の義を知るのである。汽車の走るは、石炭を焚が故である。石炭を投ぜずして何ぞ汽車が走らうか。一輪の菊花の覆郁たるがた

初夏の海は……トテモほがらかです
新緑と情熱の……ローマンスと郷愁の海邊へ……一日の清遊を
お試みになりませんか
ニ子タクシー
電六四〇番

旭硝子株式會社製品
赤菱印
硝子食器
菓子壺
其他各種
松崎硝子御作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)
支工場

外科
専門線 X
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

銀行員、鐵道員、教員、有給官吏、確實ナ御方ニ貸シマス希望者ハ返信料ヲ添ヘ住所氏名職業金額ヲ明記シ御申込下サイ
親切、秘密、迅速ニ融通シマス
常磐線平町舊城跡四十二
常磐商會

正札堂の夏服
黒ヘルセビロ上下 六圓ヨリ
パンピースセビロ上下 八圓五十錢ヨリ
ポーラーセビロ上下 九圓ヨリ
ポーラー最上品三ツ組 拾八圓五十錢
白ズボン 七拾五錢ヨリ

正札堂洋服店
電四三六

御節句の御祝の
オカヘシには!!!
値打があり
漆器が一番
漆器は是非専門勉強の
各國産漆器卸小賣
記念表彰品。進物贈答品。恩賜賞品。賞品景品類
御注文應調製 丸共共榮漆器店
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

若しも
皆様方が
よい品を
お求め
お望みなら
先づ……先づ
三七番へ

よい品を安く賣る店
電話三七七番
阿部石炭商店

炭石
スク

ドン底の農村を救へと 農民救済運動

玉川村長が伏見町長を訪ね けふ密談数時間に及ぶ

成行注目さる

窮乏の農村を救への聲は益々全国的な叫となつて擴大しつゝあるが石城郡の農民中にも今回の農民救済請願運動等を關視すべきでないとの聲が相當なかつて居る折柄石城郡玉川村長駒木根忠造氏は本日午前十時半頃平町役場に伏見町長を尋ね此の際石城町村長支會が聯合して郡下農村の一大救済運動を起さんと擬議數時間及んだが支會が乗出す際は郡農會とも提携し代表員を上京せしめ地元選出代表士を通じて主務省に猛運動を開始するとの事であるから成行さを注目されて居る

綴方松本政夫 手工山田 重幸
(第二校)算術木村ヒテ
讀方草野光司 算術山森
タマ 理科鈴木寛 地理
小松政一 圖書渡邊啓二
唱歌渡邊ツナ 國史佐藤

信義 算術大和田キヨ
家事阿部ミツノ
(第三校)算術吉田功 書
方林又左工門 体操石田
伸六郎 修身蛭田好一
圖書長谷川榮 作業花澤
武夫

桑田變じて… 白菜畑となるか

郡農會が桑畑轉用研究

石城郡下の各農家では本年の繭價安に影響されて桑葉が下落しつゝある爲め桑畑の轉用法を研究するに着手した。今日初年兵が皆なつた、今日は初年兵が皆休眼で歸つたので我々が眞の初年兵の様なつもりで一生懸命で働いた。

軍隊見學の記

公開教授 指導分擔

既報平町各小學校聯合にて來る十七、十八日の兩日第一小學校に於て公開教授を行ふが各校の指導者は左の如くである

(第一校)理科水竹仁 唱
歌矢野カネ 國史藤田力
讀方井上佳都美 算術坂
内伊貞 修身古川秀夫

第三信
第二師團工兵第二大隊
第一中隊
平商學生見學團

突然、隣の兵隊さんによむり起された、今朝は昨日の疲れでぐつぐつ寝たためかすつかり遅寝してしまつた今日は實彈射撃があるのだから皆嬉しい様な内にさすがに緊張の色が見える。

やがて例の如く嚴肅なる朝の点呼もすんで、朝食に

研究中であるが最も有望視されて現に行はれつゝあるのは蔬菜殊に白菜栽培の轉用である白菜は一反歩から平均三千貫位の收穫があり収入は百三十圓は確實であるから費用を差引いても祐に七八十圓の利益を見る事が出来る爲め郡農會は此の轉用を指導する方針である

下水掃除

十六七の兩區

平町十六區(四軒町、柳町、北白銀町) 方部及び十七區(仲間町、番匠町、鷹匠町、九品寺前)では梅雨期の傳染病豫防の爲め十六區が百二十間、十七區が三百間の下水路排水作業を行つた

神谷試験場の イチゴ大不作

品不足を告ぐ… 樹が餘り繁り過ぎた

平町の各青物店頭を飾るイチゴは殆んど神谷農事試験分場の産で占め目下一貫目二圓の取引相場を唱へられ居るが同試験場本年の收穫は意外に少なく平年百貫乃至百五十貫の收穫を見るものが僅かに五十貫に過ぎざる減少振りなので各青物店から引張り風の有様で品得点數が赤と白の旗で種々に知らせる。

かくて我々が二組に分れて各々射撃を開始した、射撃を終つて後へ下ると大概顔を赤らめて緊張がゆるんだのか安心したのか、やゝ疲れた様にぐつたりして下つて來る、最後に自分が射つたが夢中であるだけ落付く様にしがあまり當らなかつた。

射撃終了は正午近くで、すぐに兵舎に歸つて來た、午後一時八木山遊園地見學

橋本訓導出席 平第二小學校橋本キシ訓導は來る十七、十八の兩日福島女子師範學校に於て開催される縣下女教員研究會に出席すると

信用組合に 購買部

小名濱町で

石城郡小名濱町信用組合は過般組合員の希望で新たに購買部を設ける事となり去月の臨時總會の結果縣へ申請中の處本月三日付を以つて許可の指令に接したので目下各方面に照會中であるが購買事業は船舶用重油、石油、日用品雜貨等である

製炭減少 生産制限で

濱三郡木炭同業組合五月中の生産數は石城郡五万九千九十一俵、双葉郡六万二千四百三十八俵、相馬郡二万三千八百五十七俵、計十四

万六千九十一俵で昨年同期の十七万六千三十七俵に比較すると二万九千八百四十六俵の減少を現して居るのは極度の生産制限を爲した爲めであると

平職業紹介所報告

- 回 求人部
△座敷女中 廿才前後 尋卒 給料面談(平町某)
△女中 廿才前後 尋卒 給料面談(平町某商店)
△農夫 五十才 委細面談 (鹿島村某)
△農夫 三十三才迄 尋卒 年七十圓給(内郷村某)
回 求職の部
△コック 三十才 高一修 給料面談(平町某)
△産看護人 二十五才 産婆學校卒 給料面談(平町某)
△自動車工 十六才 高卒 給料面談(磐崎村某)
△土工夫 三十五才 尋五 給料面談(三春町某)

貯金は福島貯蓄へ



福島貯蓄銀行

平支店

預金には税金がかゝりません
御子様のため貯金
平町田町(新道通り清水醫院跡)
電話三〇八番
預金と拂出し御融通も懇切御便利を旨とし日掛には集金人が伺ひます

自動車網の發達と

車夫君の懐中 勘定

毎日の収入は雀の涙ほど

平驛唯一の存在 一寸のぞく 赤帽君の財布も

平町を中心として縦横無盡な自動車網の發達に最も大打撃を受けたのは平驛構内を唯一の稼場とする

甘臺餘りの人力車夫

君である現在の不景氣の前衛時代とも云ふべき昭和二年頃の統計を見ると構内の車を日十臺とみても年收は四千二百六十圓二十錢、一日十一圓六十七錢で一人の稼高は一圓十六錢に當つて居たのが昭和五年頃は年收二千三百三十九圓二十五錢、一日五圓八十六錢と

落ち始め一人六十錢位の程度であつた處最近で

は年收僅に千二百二十四圓八十五錢で一日三圓三十六錢、一人の稼賃三十餘錢と云ふ哀れな有様で車の損料を差引くと雀の涙程も残らず構内の人力車は年々其の姿を消して行く有様である

また平驛にタツタ一人の存在である赤帽君の収入は昭和二年頃は一日一圓十五錢四年が八十七錢、五年は七十八錢

最近では七十錢の稼より見られないとの事で平驛の統計係もこれでは全く基らぬだらうと同情の吐息を洩して居た

近視眼の原因

各校で目下調査

平町各中等學校にては此程眼鏡使用者を調査した結果に依ると

磐中百二名 平商五十一名 磐女六十八名

で何れも近視眼であるが中に亂視の者もあり各校では是等の原因を詳細に調査中である

罰金不服

脅迫事件

正式裁判

石城郡山田村大字井上宇澤田二十五番地炭礦事務員小島義(三)が昨年十二月十六日同村吉村炭礦工業所久保

巖頭に

怪死体

他殺か自殺か

平署員急行す

本日午前十時頃石城郡小川村大字上小川字片瀧地内小野新町に通ずる縣道傍らの夏井河畔 巖頭に腐爛

せる怪屍体横はり居たるを通行人が發見平署に急行し來つたが卅才前後の商人体にて懷中に一圓七十錢在中の墓口あるのみ他に遺留品なく何處の者とも判明しないが屍体の傍りにカルモチ

の空箱ある 處より見るに覺悟の自殺とも推定し得るも遺書等のない處から察するに何者か殺害して後犯跡を晦さん爲めの所爲では

明日のラヂオ

九日

報豫氣

今晩も明日も北東の風晴れたり曇つたりと云ふより驟雨があまりあります

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
管絃樂 日本放送交響樂團 指揮篠原正雄 解説伊藤孝
後六、二〇 コドモの新聞
村岡花子
後六、二五 カレントトピックス ハロルドバーマ

上田檢事立會の下に公判開廷檢事より懲役一年求刑されたが言渡は明日午前九時である

非國民

禁錮二ヶ月に

豚コレラ豫防 石城郡磐崎村の養豚業者は錦村及勿來方面の豚コレラの傳染を恐れ過般打合會を村役場に開き當分豚の取引は勿論移動をも禁じる事になつたが尙豚小屋の改善の爲め各地の養豚業者に照會を發する事になつたと

既報石城郡内郷村大字綴字町ノ内六十五番地日雇業嶋志田市の助の非國民的陸軍刑法違反の公判は本日平區裁判所に於て午前九時より關口判事係より上田檢事立會の下に公判開廷されたが檢事より禁錮二ヶ月の求刑あり直ちに判事より求刑通り懲役八ヶ月を言渡された

赤兒殺しの

看護婦豫審終結

殺人罪で公判へ廻送

石城郡飯野村大字上荒川字林作四十八番地看護婦鈴木トヨ(三)が植田營林署員某と關係妊娠し本年三月二十日午前一時頃親戚なる同郡夏井村大字下大越字根廻三十五番地鈴木花京方に於て俄に産氣付き分娩したる男の嬰兒を締め殺し屍体をゴミ箱の中へ遺棄したる事

窃盜漁夫

懲役八ヶ月

石城郡四倉町字福田町六番

体操

演習

平第一小學校にては來る二十八日月次運動として全校生徒の体操演習を催すと

國土防空講演

平十三日會にては來る十三日午後七時よりマルトモホールに於て例會を開くが平町分會理事陸軍航空兵特務曹長大間喜繁氏の「國土防空」と題する講演があると

K子供會

後六、二〇 コドモの新聞
村岡花子
後六、二五 カレントトピックス ハロルドバーマ

後七、三〇 講演「神道の根本義」神宮奉齋會宮城本部長富山春三
後八、〇〇 洋樂の夕獨唱 三浦環
後八、四〇 合唱と管絃樂「樂劇バルジファル」東京音樂學校管絃樂部員 指揮プリングスハイム 合唱東京音樂學校生徒

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近 藤 紫 雲 畫

第七十席 眞庭念流達人櫻井五助
飛出した長太郎

山路金作は秋田丈助の爲に打据ゑられ残念至極と云つたが技が違ふからどうする事も出来ない、丈助之を見て打笑ひ

丈「どうだ拙者の腕を見て恐れ入つたか、貴様の師匠里見主計は食得る爲に剣道の指南をいたす、されば食つて生きる爲の剣術、殊に天下は泰平にて、これが主計の幸ひだ、亂れたる世なれば此様な剣術を學べばとて物の役には立たぬぞ、能く此事を主計に傳へろ」

云はれて山路金作は齒を噛みならし、ウソ汝不埒な事を申すと睨み居る

丈「コレコレ、それに居る御令嬢吾々は御親父と試合いたす爲に態々出て参つた然し病中とあらば立合ふ事もなるまい、さりとて此儘引揚げるも興か無い、お近付きがたゞ一献頂戴いたす、依つて酒をお出し下さ

云はれて静枝が
静「仰せでございますが御酒の貯へはございません」
丈「當家に無くは酒店から取寄せるが宜い、早く持つて参れ」



長「おい山路さん、お客様来て居るかえ」
と云つて入つて来た武蔵屋の子分長太郎、道場に居る三人の武士と山路及静枝を見廻はして

た、酒を持って」
長「恐しい奴が来たナ、オイお侍、此處は劍術屋だ、酒を飲む所では無え、酒が飲みたくば京橋から右に切れると大根河岸に行くとお食物屋もある、然し甘え物を食ふには錢が餘計要る、それよりは八丁堀の地藏橋へでも行つて十二文のから汁に二十四文の酒を飲み香々で飲でも食うが好し三十二文や五十六文は俺が呉れて遣る」

丈「イヤ此奴、不埒な事を申し居る、一體貴様は何者だ」
ア、足下の明るい内に歸つたり」
丈「イヤ此奴は氣狂ひだ、コレ御令嬢酒を早く持つて参れ」

長「俺は里見主計先生執立の門人で長太郎と云ひやす、憚りながら親分は武蔵屋金五郎と云ふ人入れの親方だ、習つた劍術は天真正傳……さア大變流儀の名が長いから忘れた、さう、眞道流この先生の弟子の中で一二の指に折らぬ名人だ、あ

の精霊だね」
これを聞いて秋田丈助が丈「控へろ、なんの精霊とは失禮千萬、吾々は試合に参つた者だが當先生病氣に就き吾々共の腕前を示す事もならず、さりとて此儘空しく引揚げるも残念、依つて馳走になることにいたし

長「俺は里見主計先生執立の門人で長太郎と云ひやす、憚りながら親分は武蔵屋金五郎と云ふ人入れの親方だ、習つた劍術は天真正傳……さア大變流儀の名が長いから忘れた、さう、眞道流この先生の弟子の中で一二の指に折らぬ名人だ、あ

丈「それ程までに申すならば一と手教へて遣はす、さア打つて参れ、エ、初心者を相手としたすには道具は要らぬ、ソレ打つて來い」
長「この畜生飽迄も甘く見てゐるな、よし辛い目に遇はして遣るからさう思へ」
裾をからげ向鉢巻をして木劍を取つた長太郎、奴どもんなものだと丈助を望んで

打込んだ、ヒラリと身を交した丈助はサツと手元に躍り込み、木劍を奪ひ、それを向ふへ投げた、味な事をすると組付いて来た長太郎、その首筋を押へて引立た、丈助が不禮者めとポイントと投げた、ドシンと道場の羽目に打付けられ一時氣が遠くなつたが、漸くにして起上り

長「俺を投げたナ、もう勘辨は出来ねえ、この上は極意の手の内を現はして三人の息の根を止める、覺悟をしろ」
と申したが道場より飛出した、成程これは極意に相違ない、逃げてしまへば打たれる事もない。

お醤油は……ヤマフル
醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽 屋
山崎合名會社
福島縣平町電話營業部二階造工場
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

時計眼鏡
ト キ ワ ヤ
平一電三三九

赤い目に一滴できく
かゆ目
家傳 目藥 神 教 水 (新容器入)
平町二丁目(電三三六)
堀 藥 局
吉田眼科病院
平町三丁目 電話六八番

内科小兒科花柳病科
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

産名城磐
らか鹽と節鯉
配達敏速
魚問屋
店理代平命生本日本大最優最
榮 盛 賀 志
番一三二電 目丁四平